

2024 年度「社会学 I」学期末レポート課題

課題

次の課題に関してレポートを作成し、提出してください。課題が提出されない場合は単位を認定しないので注意すること。

授業を踏まえて家族、ジェンダー、セクシュアリティいずれかに関連する任意の問いを設定し、社会学の見地から考察しなさい。ただし、レポートの作成にあたっては、各自図書館等で文献を収集し、関連する研究書に必ず言及すること。関連する研究書とは社会学分野の単著の専門書とし、論文集、入門書や教科書、他分野の専門書は含まない。また、授業中に配付した資料は参照してもよいが、上記の関連する研究書には含まない。関連する研究書に 1 冊以上言及すれば、他の参考文献は、入門書や教科書などを参照してもよい。

評価基準

本課題の採点基準は、以下の 3 点とする。

- (1)独創性：講義を踏まえて、あなたならではの独自の問いを発展させた考察となっているか。
- (2)論理性：個人的な主観・感想・思い込みではなく、きちんと他者を説得できるような、筋の通った考察がなされているか。事実関係やエビデンスが適切に記述されているか。根拠にしているデータは信頼できるものか。
- (3)形式性：レポートの基本形式が守られているか。問いと結論が明示されているか。結論を導くための論証が適切になされているか。引用している情報・データの典拠と参考文献が明示されているか。

講評

テーマの設定がうまくできていないレポートが目立った。テーマの設定が大きすぎるレポートは、概して良いものにならない。たとえば、「現代日本の就職活動」、「若者と SNS」、「ジェンダー平等を達成するためには」などのテーマは、あまりにも大袈裟である。学術的な考察を展開していくためには、関連するあらゆる事実や膨大なデータを収集し、それらをさまざまな視点や角度から検証することが必要となる。しかし、数十年かけて執筆する大作や著書ならばともかくとして、そうした大きなテーマは通常の授業でのレポートで扱いきれる問題設定ではない。テーマを適切なサイズに限定することが、オリジナリティのある良いレポートを書くための基本である。

ひとつのコツは、専門的に探究していきたいテーマを「ふたつ」もつことである。たとえば、もしあなたが「現代日本の就職活動」とは別に、「トランスジェンダーの人権」にも強い関心があるとしよう。ならば、このふたつの領域が重なるところで、自身がより深く探究したいテーマを見定めることはできないだろうか。いずれにせよ、あなたならではの問題意識に即して、テーマを適切な大きさ、十分に扱える大きさに絞り込む工夫をしてもらいたい。